第７９回国民スポーツ大会（滋賀国スポ）選手選考基準要項

（一財）石川陸上競技協会　強化部

１　参加基準

(1) 選手団

監督２名、選手２９名（男子選手１９名以内、女子選手１９名以内）計３１名以内で編成し、種別、種目、参加数は下記のとおりとする。

監督、選手の兼務は１名とする。この場合は参加選手を３０名とすることができる。

(2)　参加制限・資格

ア　１種目１名、同一人の出場は２種目までとする。ただし、リレーは除く。

イ　都道府県主催の予選会（下記**◎、県陸協指定国スポ予選競技会**）に出場しなかった種目には出場できない。ただし、１種目の予選のみに出場し、その種目の代表となった者は、予選に出場しなかった他の１種目にも出場できる。

ウ　4×100mリレーの編成は、男女とも成年、少年Ａ、少年Ｂから各１名、残りの１名は成年、少年Ａ、少年Ｂのいずれかの種別から選出するものとし、合計８名以内で申込むこと。なお、選手変更については、日本陸上競技連盟競技規則によるものとする。

エ　男女混合4×400mリレーの編成は男女２名ずつとし、合計８名以内で申込むこと。男女とも少年Ａもしくは少年Ｂから各１名、残りの男女各１名は成年、少年Ａ、少年Ｂのいずれかの種別とする。なお、走順は男子-女子-男子-女子とする。

オ　リレーに出場する者は、予選会のどの種目であっても参加していれば出場できる。

カ　成年女子10000m競歩の出場者は、5000m競歩の予選会を経た者でもよい。少年男子Ａ5000m競歩、少年女子Ａ5000m競歩の出場者は、10000m競歩又は3000m競歩、いずれかの予選会を経た者でもよい。

キ　成年男子3000m障害には、少年男子からもエントリーできる。ただし、各都道府県からエントリーできるのは、成年男子又は少年男子、いずれかの１名のみとする。

ク　成年女子走高跳には、少年女子からもエントリーできる。ただし、各都道府県からエントリーできるのは、成年女子又は少年女子、いずれかの１名のみとする。

ケ　成年女子棒高跳には、少年女子からもエントリーできる。ただし、各都道府県からエントリーできるのは、成年女子又は少年女子、いずれかの１名のみとする。

コ　少年男子Ｂ3000mの出場者は、1500mの予選会を経た者でもよい。

サ　成年男子300m・少年男子Ａ300m・成年女子300m・少年女子Ａ300mの出場者は、100m、200m、400mいずれかの予選会を経た者でもよい。

シ　少年男子Ａ300mハードル及び少年女子Ａ300mハードルの出場者は、200m、300m、400m、110mハードル/100mハードル、400mハードルいずれかの予選会を経た者でもよい。

ス　少年女子Ａ2000m障害の出場者は、2000m障害の予選会を経た者のみとする。

２　予選競技会（2025年度選考競技会）　**◎＝都道府県主催（石川県）が指定した国スポ予選競技会**

◎石川県陸上競技選手権大会

◎石川県中学校陸上競技対校選手権大会

◎全日本中学校通信陸上競技石川県大会

◎第７９回国民スポーツ大会陸上競技石川県予選会

◎第３回大島鎌吉記念陸上競技大会

◎第１回石川県陸上競技記録会２０２５

○日本陸上競技選手権大会

○全国高等学校陸上競技対校選手権大会

○全国中学校陸上競技選手権大会

○北信越高等学校陸上競技対校選手権大会

○北信越中学校陸上競技大会

◇準予選競技会

○日本陸連主催等大会

○日本学生連合主催大会等

○北陸実業団陸上競技選手権大会

○各地区学生陸上競技対校選手権大会

○石川県高等学校陸上競技対校選手権大会

○全日本競歩（元旦・神戸・能美・輪島）

※国スポ候補となる選手の欠場に関しては棄権届を提出すること。

3　参加資格、所属都道府県及び選手の年齢基準

（1）　監督・選手は、日本陸上競技連盟登録者であること。

（2）　総則５-(1)(2)に定めるもののほか、次による。

ア　日本国籍を有しない者〔出入国管理及び難民認定法に定める在留資格のうち、永住者（日本国との平和条約に基づき、日本国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法に定める特別永住者を含む。）を除く〕については、学校教育法第１条に定める学校に在籍する生徒に限り、少年の種別に各都道府県、男女各１名以内で参加することができる。

イ　監督は、公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度に基づく公認陸上競技コーチ３、公認陸上競技コーチ４（以上、JAAF公認コーチ）、または公認陸上競技コーチ１、公認陸上競技コーチ２（以上、JAAF公認ジュニアコーチ）の資格を有する者とする。なお、監督、選手兼任の場合も同様とする。

ウ　ふるさと選手制度については、第79回国民スポーツ大会実施要項総則５（別記１を含む）の規程による。

＜永住権を有する外国籍競技者の参加＞

原則参加申込締切日までに、永住者だとわかる「在留カード」または「在留資格認定証明書」のコピーを、彦根市実行委員会事務局に提出すること。

（3）　選手の年齢制限

ア　成年の部に参加する競技者は、２００７年４月１日以前に生まれた者とする。

イ　少年Ａの部に参加する競技者は、２００７年４月２日以降２００９年４月１日までに生まれた者とする。

ウ　少年Ｂの部に参加する競技者は、２００９年４月２日以降に生まれた者とする。

（ただし、中学生は３年生のみ参加できる）

5　選考基準

○基準記録Ａ及びＢの突破者で石川陸上競技協会（強化部）が指定した選考予選競技会に出場している競技者から選考する。指定した選考予選競技会に不参加（エントリー無）・欠場（エントリー有・棄権）の場合は、国スポ参加資格はない。

○基準記録Ａ及びＢの突破者で選考予選競技会に出場し上位の競技者から選考する。

○追風参考記録は、参考記録として扱うため基準記録突破として扱わない。選考上公認記録等が同記録の場合には選考対象とする場合がある。

○２０２５年１月より競技会（記録会含）での実績及び競技会（記録会含）の今季最高記録を総合的に選考する。

●成年少年男女３００ｍに参加の意志がある選手は、７月国スポ県予選競技会の３００ｍに必ず出場すること。（エントリー無、棄権の場合は参加意思がないもの判断する）

○２０２５年１月より、全ての種別については国スポ石川県予選会最終日までの今季競技会での実績、今季最高記録を参考として総合的に選考する。選考上必要に応じて、該当種目のみ期日延長を行う場合がある。

○強化部で推薦する競技者を選考する。
※石川県国スポ選手として心身共に健全な競技者を選考する。
（石川県代表（国スポ）選手として相応しくない競技者は選考しない。）
※選考された選手は強化部が主催する各種事業（強化練習会・合宿）に積極的に参加する。

6　基準記録（別紙）注：基準記録は毎年見直す。

7　国スポ選手選考について
強化部で選手選考し（一財）石川陸上競技協会へ推薦する。推薦した候補選手を、（一財）石川陸上競技協会理事会の承認を経て内定とする。その後（公益財団法人）石川県スポーツ協会競技力向上委員会の決定により、正式に石川県の代表選手（決定）となる。正式決定後、所属または本人あてに決定通知書（９月上旬）を送付する。代表決定後、怪我等により辞退する場合については速やかに顧問あるいは本人から申し出ること。
※基準記録突破選手であってもケガ等がある場合（選考前でも選考後でも）、滋賀国スポ大会での活躍が困難と判断した場合は、選考しない場合がある。

8　確認事項
○７月国スポ県予選競技会は、成年女子10000m競歩は5000m競歩で実施する。また、少年男子共通110mハードルは、ハードルの高さ/ハードル間は、106.7m/9.14mで実施する。
○選手内定後（決定後）は、国スポを最重要大会として本大会に向け調整すること。
○県内の成年少年選手は、強化部が主催する国スポ強化合宿（強化練習会）に必ず参加すること。
参加しない内定者は内定（決定）を変更する場合もある。
○（一財）石川陸上競技協会激励壮行会は、９月下旬に行う。
○国スポ選手決定後に怪我をした場合は選手変更の手続きをします。
（附則）　(1)ふるさと選手登録制度について
成年種別に出場する選手は卒業中学校または卒業高校のいずれかの所在地が属する都道府県から出場することができる。ただし、原則として１回につき２年以上連続として、利用できる回数は２回までとする。
ふるさと選手登録については、年度ごと毎年、登録手続きをしなくてはならない。
(2)国際大会等出場者（トップアスリート措置）について
(公益財団法人)日本陸連の規定により国際大会出場に日本代表として選出された競技者は予選会が免除される場合もある。

9　競技上の規則及び方法
2025年度日本陸上競技連盟競技規則によるもののほか、下記の要領で実施する。
(1) 少年男子Ａ300mハードルの、ハードルの高さは、0.914mとする。
(2) 少年男子Ａ円盤投の円盤の重さは、1.750kgとする。
(3) 少年男子Ａハンマー投のハンマーの重さは、6.000kgとする。
(4) 少年男子Ａやり投のやりの重さは、800ｇとする。
(5) 少年男子Ｂ砲丸投の砲丸の重さは、5.000kgとする。
(6) 少年男子共通110mハードルの、ハードルの高さ/ハードル間は、0.991m/9.14mとする。
(7) 少年女子Ａ300mハードルの、ハードルの高さは、0.762mとする。
(8) 少年女子共通100mハードルの、ハードルの高さ/ハードル間は、0.838m/8.50mとする。
(9) 少年女子共通やり投のやりの重さは、600gとする。